

## 「黄砂の観察」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

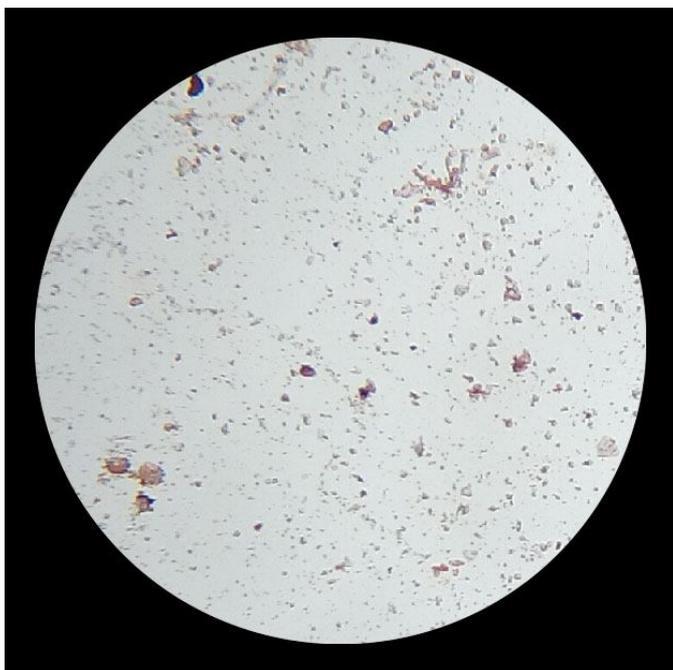
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

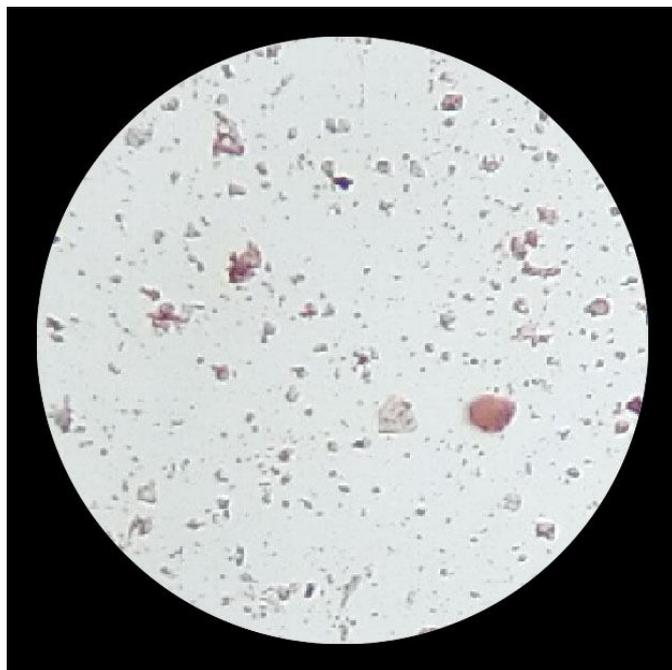
黄砂は春先に多い。中国大陸の奥地から舞い上げられた砂塵が、西風に乗って、朝鮮半島や日本列島に飛んでくるのが黄砂である。



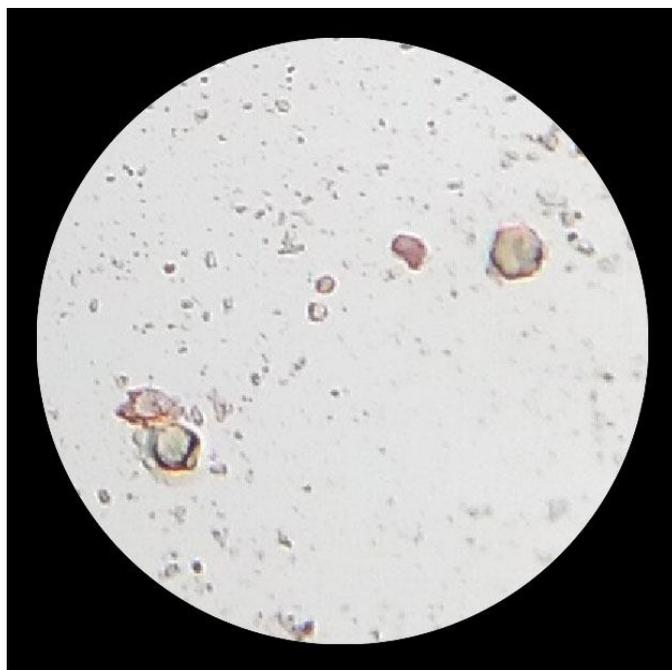
先日の5月8日、全国的に黄砂が観測された。北軽井沢に設置した火山観測カメラの画像である。この日は朝から快晴だったが、浅間山は少し霞んで見えた。間違いなく黄砂の影響によるものである。



私はこの日、東京の自宅テラスにスライドを設置しておいた。約24時間放置したあと、顕微鏡で観察してみた。100倍程度の倍率では、黄砂の鉱物結晶はなかなか見えてこない。



黄砂を構成する鉱物の結晶が小さいのは、黄砂の発生源が非常に遠いからだ。火山灰の場合もそうだが、大きな粒の鉱物ほど、発生源の近くに落ち、小さいものほど遠くまで飛ぶ。黄砂の場合も、風で巻き上げられた砂塵のうち、大きな粒はすべて中国大陸に落下してしまい、日本海を越えられるのは、ごく小さな粒だけである。写真は400倍の画像だが、大きな結晶は恐らく国内由来の鉱物結晶だろう。



顕微鏡では「黄砂は黄色い」ということは実感できなかった。しかし、黄砂に混ざってスライドに残っていた鉱物は、なかなか興味深かった。この写真には右端に六角形の結晶が写っている。恐らく「白雲母」か「黒雲母」、或いは「やまなし」にでてくる「金雲母」かも知れない。「自宅テラス鉱物観察」は楽しかった。